地方独立行政法人
総合病院 国保旭中央病院

【アクセス】

JR総武本線／特急しおさい 所要時間：東京駅から約1時間30分

東京駅（地下） ― 千葉駅 ― 旭　駅

JR旭駅より旭中央病院専用バスがありますので、ご利用ください。
専用バスの時刻表は、正面玄関脇および当院ＨＰにてご覧いただけます。

高速バス 所要時間：東京駅から約1時間50分

バスターミナル 東京八重洲 ― 大　栄 ― 旭 ― 旭中央病院東
東京八重洲 ― 横芝光I.C. ― 旭

自動車

東　京 ― 千　葉
千葉 ―（千葉東金道路）― 松尾横芝I.C. ―（銚子連絡道路）― 匝瑳I.C. ―（県道48号・国道126号）― 旭市街
千葉 ―（東関東自動車道）― 大栄I.C. ―（国道51号・県道70号）― 干　潟 ―（県道28号）― 旭市街

〒289-2511 千葉県旭市イ-1326
TEL 0479-63-8111
URL www.hospital.asahi.chiba.jp/

地方独立行政法人
総合病院 国保旭中央病院

2024.07

【基本理念】

# すべては患者さんのために

私たちは地域の皆さまの健康を守るために、常に研鑽に努め、
医学的にも経済的にも社会的にも適正な模範的医療を提供します。

【基本方針】

## 信頼され選ばれる病院へ

・患者さんの権利と尊厳を尊重し、満足と信頼が得られる病院をめざします
・常に安全に配慮した医療環境の維持向上に努めます

## 地域とともに歩む

・地域の皆さまの健康を守り、地域医療の向上に努めます
・すべての救急医療をいつでも提供できるよう努めます
・保健・医療・介護・福祉の連携の核となる病院になります

## 未来へ向かって

・時代の要請に応じた最高水準の先進的な医療を提供する病院をめざします
・地方独立行政法人として、自主性・公共性・透明性の高い病院運営を行います
・職員の教育・研修の充実を図り、働きやすく、やりがいの持てる環境づくりを推進します

2001年1月(制定)　2017年4月(改訂)

# 開院から現在まで

今までも、そしてこれからも、私たちは地域の皆様とともに、歩んでまいります。

*1953*年(昭和28年)開院

病床数：113床
医師数：8名
職員数：45名

*1963*年(昭和38年)

1964年：附属高等看護学院開校
(県内初の進学コース)
1965年：神経精神科開設
1970年：脳神経外科開設

*1988*年(昭和63年)

1979年：公営企業法全部適用
1980年：人工透析センター開設
1981年：臨床研修指定病院
1982年：看護学校3年制
1984年：救命救急センター指定
1985年：新生児医療センター開設
健診センター開設
1989年：介護老人保健施設併設

*2000*年(平成12年)

1996年：基幹災害拠点病院
1999年：第二種感染症指定医療機関
2003年：地域がん診療連携拠点病院
2005年：市町合併により旭市立病院
となる

*2011*年(平成23年)

2011年：地上12階の新本館竣工
2016年：地方独立行政 法人へ移行
2017年：地域医療支援病院

*2023*年(令和5年)

2021年：がんゲノム医療連携病院
2021年：附属病理診断科
診療所開設
(東京都文京区)

## 現在

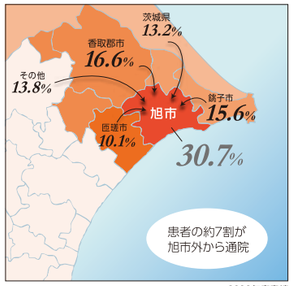
千葉県東部および茨城県南部を含む半径30km
圏(人口約90万人)を診療圏とする、日本有数の
公立病院に成長



# 病院概要

| | |
|---|---|
| ■病床数 | 989床 (一般763 / 感染6 / 精神220) |
| ■標榜科目 | 40科 |
| ■全職員数 | 2,206名 (2024年4月) |
| ■医師数 | 285名 (2024年4月) |
| ■看護師数 | 1,000名 (2024年4月) |
| ■外来患者数 | 2,337 人 / 日(2023年度) |
| ■救急外来患者数 | 45,584 人 / 年 (うち、即時入院 6,993 人、救急車搬送 9,403 人、紹介依頼 2,895 件：2023 年度) |
| ■中央手術室手術件数 | 7,898人 / 年 (2023年度) |
| ■敷地面積 | 189,050.04 ㎡ |
| ■建築面積 | 42,323㎡ |
| ■延床面積 | 174,922㎡ |
| ■附属施設 | 旭中央病院附属飯岡診療所／旭中央病院附属病理診断科診療所 (東京都文京区本郷) ／旭中央病院附属看護専門学校<br>介護老人保健施設シルバーケアセンター／ケアハウス東総園／訪問看護ステーション旭こころとくらしのケアセンター |

地域別外来患者比率




2022年度実績

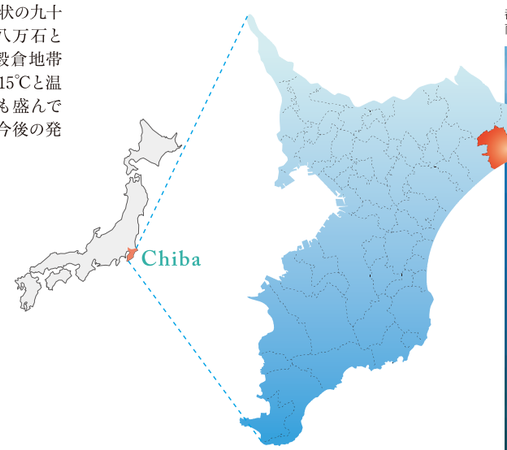
■指定・認定施設、第三者評価

□地域がん診療連携拠点病院
□救命救急センター (Sランク)
□基幹災害拠点病院
□救急告示病院
□DMAT指定医療機関
□小児救急医療拠点病院
□精神科救急医療施設
(基幹・措置輪番・輪番病院)
□一次脳卒中センター (PSC) コア
□地域医療支援病院
□紹介受診重点医療機関
□地域包括医療・ケア認定施設
□第二種感染症指定医療機関
□エイズ治療拠点病院
□地域周産期母子医療センター
□未熟児養育医療担当機関
□地域認知症疾患医療センター
□精神科指定通院医療機関
□精神科指定病院 (措置・応急入院)
□身体疾患合併症対応協力病院 [対応協力病院Ⅰ群]
□千葉県精神障害者地域移行・
地域定着協力病院
□依存症専門医療機関 (アルコール健康被害)
□地域難病相談支援センター
□難病患者指定医療機関
□難病医療協力病院
□指定小児慢性特定疾患医療機関
□結核予防法指定医療機関
□地域リハビリテーション
広域支援センター
□高次脳機能障害支援普及
事業地域支援拠点機関
□千葉県アレルギー疾患地域基幹病院
□千葉県肝疾患専門医療機関
□千葉県肝炎治療特別促進事業
指定医療機関
□千葉県肝がん・重度肝硬変治療研究促進事業指定医療機関
□生活保護法指定医療機関
□原子爆弾被爆者一般疾病医療機関
□厚生労働省臨床研修指定・協力病院 (医科/歯科)
□外国医師・歯科医師の臨床修練指定病院
□母体保護法指定医師研修機関
□日本医療機能評価機構認定
(3rdG:ver.2.0) (救急医療機能Ver2.0)
□人間ドック健診施設機能評価(Ver4.0)
□JIS Q9001:2015 (ISO9001：2015)
□ISO15189:2012 (英語対訳版)

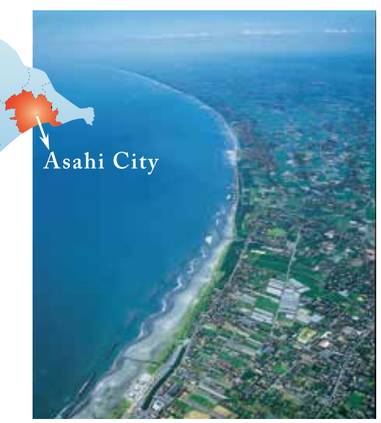
# 旭市について

太平洋、九十九里海岸を臨む街、千葉県旭市。

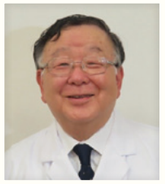
旭市は、南部に美しい弓状の九十九里浜、北部に干潟八万石と呼ばれる房総屈指の穀倉地帯が広がっています。平均気温が15℃と温暖な気候から、農業、水産業も盛んです。東総地域の中核都市として今後の発展が期待されています。




●千葉県旭市
都心から80km圏、千葉市から北東に約50kmにある。
南部は九十九里浜に面し、人口は約63,000人。



# ご挨拶 ～良質で安全な医療の提供をめざして～



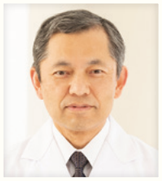
理事長
## 吉田 象二
Shouji Yoshida

当院は1953年に地域住民の健康を守るという目的で設立され、2023年に開院70周年を迎えました。一部事務組合立の国保病院として発足しましたが、構成市町の合併により国保旭市立病院、さらに2016年からは地方独立行政法人病院と経営形態を変更して現在に至っております。

旭中央病院は病院の類型では広域基幹型急性期病院に分類されます。当院を受診する方のうち旭市在住の患者さんの占める割合は外来で約30%、入院で25%程度であり、旭市を含む広い圏域から患者さんを受け入れています。また医療法で定められた5疾病（がん、脳卒中、心筋梗塞等の心血管疾患、糖尿病、精神疾患）、5事業（救急医療、災害時における医療、周産期医療、小児医療、新興感染症対策）全ての、地域における拠点病院になっています。2022年度の香取海匝2次医療圏における当院の疾患占拠率は54.5%に達しており、特に小児疾患は100%、婦人科疾患は94.0%と高い値になっており、数字の上でも基幹病院であることが証明されています。広域基幹型急性期病院の必要条件として下記のことが挙げられます。
①救命救急センターを併設し24時間対応の救急医療を行う、②高度先進医療を含む地域で一番の高品質な医療を提供する、③5疾病、5事業すべての地域における拠点病院である、④基幹災害拠点病院として災害時に中心的役割をはたす、⑤医療従事者の教育研修病院である、⑥予防医療を充実し地域住民の健康寿命の延伸に貢献する、⑦地域連携の更なる強化（医療機関だけでなく、行政、施設、住民すべてに面で対応する）を行い密なるネットワークを構築する、⑧医療DX（デジタルトランスフォーメーション）を推進し医療の質を向上させる。

この2024年4月からは第3期中期計画（～2028年3月）がスタートしました。人口減少や働き方改革さらには新型コロナ感染症を契機とした人々の受療行動の変化など乗り越えるべきハードルは高いものがありますが、当診療圏において当院は今後も24時間対応の救急医療を核とした広域基幹型急性期病院としての役割が期待されています。

地域の皆さまに一層信頼され、職員にとっても働き甲斐のある病院であるよう努めてまいりますので、今後もよろしくお願い申し上げます。



統括病院長
## 野村 幸博
Yukihiro Nomura

当院は高度急性期機能を有する、地域医療支援病院であることから、その責務を果たすために様々な取り組みをしています。そのような取り組みのいくつかをご紹介します。

【救急医療の充実】
三次救急医療機関として、24時間365日重症の救急患者を受け入れており、救急車搬送は年間9000件以上、応需率は90%を超えており、救命救急センターは最高のSランクの評価を得ています。
【医療安全の確保】
医療安全管理推進室が中心に患者安全のための活動を行っています。例えば、インシデントレポートの収集・分析によって医療事故防止に役立てたり、職員の医療安全教育・研修を積極的に行って安全意識の向上に寄与したりしています。
【院内感染対策】
感染対策室を中心に感染対策委員会や感染対策チームを組織し、病院全体で院内感染の予防や拡大防止に取り組んでいます。コロナ禍では、地域の病院や介護・福祉施設等と連携し、院外の活動も積極的に行ってまいりました。
【医療の質の維持・向上】
TQMセンターが医療の質を向上させるための活動をしています。具体的には、様々なQI（質指標＝患者満足度、クリニカルパス適用率など）の算出と分析、QC活動（質改善活動）の推進、組織横断的活動の支援、などを行っています。
【職員の教育・研修】
最新の医療を学ぶために多彩なセミナーや研修会を開催しています。また、より多くの学習機会を提供するためにeラーニングも積極的に活用しています。

さて、2024年度は医療界にとって以前にも増して様々な課題が課された年になりました。

その課題の一つは医師の働き方改革です。医師の健康を確保するために、時間外労働時間の短縮や勤務間の休息の確保などが必須となりますが、その一方で働き方改革によって医療の質が低下することのないようにしなければなりません。当院のような忙しい高度急性期病院では極めてチャレンジングな課題ですが、病院職員だけでなく地域住民の方々の協力も得ながら働き方改革を進めて行きたいと考えています。

また、2024年度から「新たな地域医療構想」の検討が始まります。2040年代には日本の高齢者人口がピークに達し、生産年齢人口が減少して人手不足が深刻になります。この「2040年問題」に対処するために新たな地域医療構想を策定し、高齢者救急への対応、医療と介護の連携強化、医療DXの推進など、多岐にわたる取り組みを進めようというわけです。当院は地域医療を担う中核病院として、これらの課題に積極的に取り組んでいく所存です。

医療界を取り巻く情勢は年々厳しくなっているように感じますが、そのような中でも当院の基本理念「すべては患者さんのために」を忘れることなく、常に患者中心の医療を心がけてまいりますので、今後とも旭中央病院をよろしくお願い申し上げます。



# 地域医療の要として最先端の設備を備えた本館

## 1 高度医療に対応できる施設・設備を完備

血管撮影装置を装備したハイブリッド手術室、手術支援ロボット「ダヴィンチXi」、高精度放射線治療装置「TrueBeam」、半導体PET/CT装置「Discovery MI」等、最新の設備を導入しています。

ハイブリッド手術室

ダヴィンチ Xi

Discovery MI

## 2 患者さんのプライバシーに配慮した療養空間

間仕切り家具を配した4床室

個室病室の増床に加え、多床室では間仕切り家具を配してプライベート空間を確保。また、外来診察室や検査室も中待合室を無くして個室化し、患者さんのプライバシーに配慮しています。

## 3 患者さんにも働く人にもやさしい高アメニティ

デイルーム

病棟には「井」型の平面形を採用し、東西各病棟のスタッフステーションが隣接して配置されているため、スタッフが連携しやすく、効率性と安全性が高まりました。また、検査部門を集約することで移動による患者さんの負担軽減にも配慮しました。

## 4 災害にも強い安全で安心な病院

免震構造

千葉県東総地域の病院では初となる免震構造を取り入れ、震災時にも医療を提供できる作りとなっています。非常用ガスタービン発電機の設置による自家発電機能の強化、石油の備蓄、地下水の浄化利用など、災害時にも対応できるインフラを整備しています。

ホスピタルモール

## 5 環境への配慮と省エネルギーへの取り組み

断熱性を高めるための屋上庭園

自然採光を積極的に取り入れるほか、屋上庭園を設けて断熱性を高め、空調負荷を低減しています。蓄熱水槽の設置や雨水の貯留など、省エネルギーに取り組んでいます。

# 高度医療や災害にも対応できる充実した医療体制

## 高度医療の充実（地域がん診療連携拠点病院）

当院は2003年からがん診療連携拠点病院に指定されています。2009年の放射線治療棟拡充に続き、2011年の本館オープン時には40床の外来化学療法センターを整備しました。内視鏡下手術支援ロボット「ダヴィンチXi」（2台体制）、高精度放射線治療装置「True Beam」、半導体PET/CT装置「Discovery MI」等の最新の設備を導入するとともに、早期診断から外科手術、化学療法、放射線治療、緩和ケアまで、包括的ながん診療を提供しています。また、2021年からはがんゲノム医療連携病院としてがん遺伝子パネル検査や遺伝学的検査、遺伝カウンセリングにも対応しています。

## 基幹災害拠点病院として

当院は、大規模災害において被災地内での迅速な医療活動の核となる基幹災害拠点病院の指定を受けています。本館を免震構造にすることや、自家発電機能の強化、また、断水に備えた地下水の確保など、災害時でも平時に近いレベルの医療の提供が可能となりました。

また専門的教育を受けた医師や看護師等で構成されるDMAT（災害派遣医療チーム）、DPAT（災害派遣精神医療チーム）の養成にも取り組んでいます。

## 24時間対応の救命救急センター

当院は、「救急医療は医の原点」との考えのもと、1967年より地域の救急医療を支えています。1984年には救命救急センター指定を受け、三次救急のみならず、一次、二次も含め、全ての救急患者を24時間・365日体制で受け入れています。2023年度は受診総数45,584人、救急車搬送数9,403件、救急車応需率92.64%、救急入院6,993人で救急車件数は過去最多となりました。2019年11月に導入したドクターカーの出動数は102件でした。

## 周産期医療の充実

当院は千葉県で最初の地域周産期母子医療センターとして認可されました。産科病棟とNICUを集約し、ハイリスク母胎搬送、分娩管理、ハイリスク児の集中管理の連携を図っています。年間700件近くの分娩に対応するほか、院外で出生した病児の入院も受け入れており、新生児搬送専用救急車も整備しています。

## 地域医療支援病院として

当院は2017年に地域医療支援病院の承認を受けました。紹介患者に対する医療の提供、救急医療の提供、検査機器共同利用の実施、及び地域医療従事者に向けた地域医療者（医師）懇談会や研修会等の開催により広く地域の医療・介護を支援するとともに、紹介・逆紹介を通じて二人主治医体制を推進し、地域完結型医療の構築を目指しています。

地域医療者（医師）懇談会

# 地域とともに歩む病院としてのさまざまな取り組み

市民公開講座

## 地域に向けた取り組み

当院では地域との交流にも積極的に取り組んでいます。「病院まつり」「市民健康講座」をはじめ、当院の医療従事者が地域に出向いて講座を行う「健康づくり出前講座」、自治体主催の産業まつりへの参加など活動は多岐にわたります。また、児童虐待症例への対応や啓蒙活動、がん治療中の方やご家族・体験者を対象とした「がん患者サロン」などの活動も行っています。

## こころの医療センター

1965年の神経精神科開設以来のノウハウを集約した「こころの医療センター」を2012年4月に開設。児童精神外来と入院機能を整備し、子供からお年寄りまで一貫した診療を提供できる体制を整えました。訪問看護ステーションも併設し、地域に開かれた精神保健医療を提供しています。

## 地域医療支援センター

2011年3月、千葉県地域医療再生プログラムに基づき、旭中央病院内に開設されました。現在、地域医療従事者に対する医療用シミュレータを用いた研修の開催などの教育訓練支援（スキルセンター）、当院単独研究、多機関共同研究などへの臨床研究支援（臨床研究支援センター）等の役割を担っています。

## 教育・研修について

### 臨床研修医の受け入れ

当院では1981年から臨床研修制度を導入。当初よりスーパーローテート方式を採用して、幅広い症例を学べる環境を提供しています。

### 外国人講師の招聘

グローバルスタンダードを学ぶ機会として、米国・英国から年10名以上の教授・准教授クラスの医師を招聘し、指導を受けています。

### 海外研修機会の提供

3年目の後期研修医には海外の医療機関での研修機会を提供しています。米国の姉妹病院の希望専攻科へ、毎年4～5名が留学しています。

### 看護師の教育

看護局では、新人看護師の教育をはじめ、キャリアアップ支援にも力を入れ資格取得をサポートしています。院内認定制度も導入し、専門性の向上を推進しています。

## その他の取り組み

### 医療安全への取り組み

患者さんに信頼され、当院で安心して診療を受けていただけるよう、医療安全管理推進室を中心に院内の安全管理に努めています。

### TQMセンター

TQMセンターは、医療の質向上、患者満足度の分析・改善、院内連携の充実を目標に、臨床指標の設定・追跡・比較、QC活動の支援・普及、横断活動部門支援を継続して行っています。

### 第三者評価について

ISO9001認証や日本医療機能評価機構による認定など、第三者からの評価を受けており、安心・安全な医療の提供を推進しています。

# 診療科のご案内

## 内　科

当院内科は、総合内科としてスタートし、専門診療科が分化していく経過を辿ってきたことから、全ての内科系専門診療科の総称として「内科」と呼んでいます。内科における各専門診療科は以下にご案内するとおりです。

### 消化器内科

当院内視鏡室は年間、上部内視鏡13,000件以上、下部内視鏡約4,800件、内視鏡的膵胆管造影約1,000件を施行しており、全国的にみてもかなりアクティビティーの高い部門です。その他カプセル内視鏡、小腸内視鏡、超音波内視鏡など特殊検査も可能です。

### 循環器内科

あらゆる循環器疾患を対象として高度医療を行っています。虚血性心疾患（急性心筋梗塞・狭心症）、心不全、不整脈が入院患者の3大疾患となっています。心血管カテーテル治療を得意としています。

### 呼吸器内科

肺癌、肺炎、慢性呼吸不全、間質性肺炎など呼吸器疾患全般の診療を行っています。呼吸器外科とも連携を密にし、その他の診療科とも共同しての診療を心がけています。

### 神経内科

神経内科では、神経難病などの慢性疾患から脳炎や脳血管障害の急性疾患まで幅広い診療を行っています。手足の動かしにくさや物忘れ、めまいで受診される方が多いですが、多岐にわたり多くの疾患の診療を行っています。

### 総合診療内科

総合診療は、問診と身体診察を基本とし、一般的感染症、不明熱、脳血管障害、内分泌代謝、糖尿病合併症などの内科疾患、診断が不明、また、複数の専門科に渡る症例などを幅広く診療しています。

### 腎臓内科

千葉県東部、茨城県鹿行地域における腎疾患の拠点として、多数の腎関連患者の紹介を受けています。腎疾患の診断・治療・長期管理、腎不全治療および合併症管理を一貫して行える体制を整えています。

### 血液内科

造血器悪性腫瘍に対する化学療法を中心に、移植治療（自家移植、同種移植）、新規薬物療法など幅広く診療しています。近隣に血液内科を標榜する病院がないため、様々な疾患に対応しています。

### 糖尿病代謝内科

当院は約4,000人もの糖尿病患者が通院しており、当科では糖尿病専門医に加えて様々な医療職が一丸となって診療や合併症予防に従事しています。活動は院内にとどまらず、地域の健康づくりや生活習慣病を予防する取り組みも行っています。

### アレルギー・膠原病内科

膠原病・リウマチ疾患、アレルギー疾患の専門医による最先端の高度医療を提供します。膠原病・リウマチ疾患では全身性エリテマトーデス、多発性筋炎、関節リウマチなどを診療します。アレルギー疾患では主に気管支喘息を診療します。

## 透析科

透析装置153台を設備し、全国の透析施設の中でも単一施設としては最大級の規模を有しています。救命救急や集中治療に関する血液浄化療法の要請も多く、24時間体制で持続的血液浄化、血漿交換、血液吸着等を行っています。

### 化学療法科

がん診療拠点病院として、病棟と外来、化学療法センターとの継ぎ目のない治療を継続し、チーム医療の実践を重視しています。化学療法に特化した対応を行うことで患者さんのケアや副作用対策の向上を図っています。

## 感染症科

感染症科では地域で問題となる2類感染症（結核、ERS、新型インフルエンザ等）やHIV感染症の他、市中発症の重症感染症治療、院内発症の肺炎・尿路感染や医療関連感染症の診療を行っています。また、千葉県院内感染対策地域支援ネットワークの北総地域幹事病院として地域の医療機関と連携し、耐性菌やアウトブレイクを減らすことを推進しています。

## 外　科

外科全体の手術件数は年間1,800件以上にのぼり、消化器外科・血管外科・呼吸器外科・乳腺外科・甲状腺外科の各分野で専門的な診療を行っています。緊急手術も多く、当地域の救急医療の一翼を担っています。

### 消化器外科

消化器の悪性腫瘍（胃癌・大腸癌・肝癌など）及び良性疾患（胆石や虫垂炎など）に対して外科治療を行います。ヘルニアの日帰り手術から胃癌のロボット手術や肝胆膵の高難度手術に至るまで、多岐に渡る多くの手術を施行しています。

### 血管外科

腹部大動脈瘤（開腹手術と血管内治療）、破裂性腹部大動脈瘤（24時間体制）、閉塞性動脈硬化症、急性動脈閉塞、下肢静脈瘤（炎症・血栓・潰瘍合併など重症例）、下肢浮腫、シャントトラブルなどを担当します。厳しい禁煙指導も行います。

### 呼吸器外科

当院は香取海匝地域で唯一の呼吸器外科認定修練施設です。手術の約半数は原発性肺癌が占め、他には転移性肺腫瘍・気胸・縦隔腫瘍などを扱います。気胸や膿胸などの緊急性のある疾患は、救急外来からの入院や他院からの転院も多く受け入れています。

### 乳腺外科

乳腺の良性疾患および乳癌に代表される乳腺の悪性疾患に対応しています。乳癌診療では乳房温存治療や乳房切除と同時再建、内分泌療法、化学療法や分子標的治療など、幅広い治療法に対応しています。

## 心臓外科

循環器内科と密接に連携しながら、緊急手術を含めて年間100件以上の成人心臓・大動脈疾患手術を行っています。また、右小開胸手術やステントグラフト手術などの低侵襲手術にも取り組んでいます。

## 脳神経外科

救急医療を担う部署として24時間手術ができる体制をとっています。脳血管内手術、未破裂動脈瘤など、年間500件以上の手術を行っています。血管造影装置を備えたハイブリッド手術室もあり脊髄以外のすべての疾患に対応します。

## 整形外科

外来では外傷、脊椎疾患、関節疾患等の診療を行い、千葉大学との連携で手の外科、スポーツ膝関節、足の外科の専門外来も開設しております。入院では外傷手術は大腿骨近位部骨折が多く、受傷後早期手術に対応、また高度な脊椎手術、人工関節手術も行っております。

### リハビリテーション科

新生児から高齢者まで、入院から外来・訪問にわたる包括的なリハビリテーションを提供しています。併設の老人保健施設・老人福祉施設へのスタッフ派遣や、香取海匝地域リハビリテーション広域支援としての活動など、介護・福祉領域との連携も推進しています。

## 産婦人科

当院産婦人科は東総地区の周産期医療および婦人科腫瘍に対応し、年間分娩数約700件、手術件数約700件を担う県内有数の施設です。また、多くの研修やレクチャーを取り入れて、若手医師の育成にも力を入れています。

### 小児科

365日24時間、県内の高次医療機関の協力を得ながら、緊急入院が必要なすべての小児患者さんに対応しています。一般外来では、てんかん、喘息、重症心身障がい児（者）の慢性期管理などの他、言語聴覚士、公認心理師を配属し、幼児や学童の発達相談にも対応しています。

## 新生児科

NICU9床、GCU21床を有する周産期医療の中核施設です。年間260例以上の新生児の診療を担当しています。新生児搬送専用の救急車を保有しており、地域の医療機関で出生した病児も受け入れています。

### 泌尿器科

年間1,900件を超える手術を行っています。副腎・腎・尿路には内視鏡・体腔鏡、前立腺にはロボット支援内視鏡、レーザー・小線源、腎・尿管結石には対外衝撃波・レーザー等、なるべくお腹を切らず負担の軽い治療を行っています。

## 皮膚科

午前中は一般外来診療、午後は予約制で手術やパッチテスト、プリックテストなどの検査を行っています。悪性黒色腫の免疫チェックポイント阻害薬、乾癬の生物学的製剤などの全身療法も積極的に行っています。入院は皮膚悪性腫瘍手術の他、あらゆる皮膚疾患に対応しています。

### 耳鼻咽喉科・頭頸部外科

近隣に耳鼻咽喉科が数少ないため、当科では市中疾患を中心に幅広い疾患を取り扱っています。耳・鼻・のどの一般的な疾患から頭頸部癌まで様々な疾患に対応しています。

## 眼　科

東総地区の基幹病院として眼科の緊急疾患や手術など視機能を左右する疾患を中心に診療を行っております。手術は白内障、緑内障、硝子体手術、斜視手術など多岐にわたる手術を施行しています。

### 遺伝子診療科

がん遺伝子パネル検査や遺伝学的検査、遺伝カウンセリングを行っています。なるべくわかりやすい説明や患者さんに寄り添った遺伝カウンセリングを心掛け、遺伝学的検査を通して治療やその後のフォローアップに繋げられるような診療を行っています。

## 形成外科

形成外科は新生児から高齢者まで、頭から指先まで幅広く治療対象としています。機能再建のみならず、形態治療も扱う科です。当科も外傷、腫瘍（良性、悪性、血管腫）、先天奇形（口唇口蓋裂、耳介奇形、手指奇形）、顔面神経麻痺、難治性潰瘍などあらゆる領域に対応しています。顕微鏡下の血管吻合技術を応用し、切断指や遊離複合組織移植術、リンパ管疾患に対する治療（リンパ管吻合術、リンパ移植）を行っています。また、炭酸ガスレーザー、Qスイッチ付ルビーレーザーを用いた治療も行っています。

### 麻酔科

全身麻酔で行われる手術や、全身状態に心配のある患者さんの局所麻酔手術を、年間4,000件近く担当しています。麻酔科医が常に手術室に待機して緊急手術にも対応しています。外来では、神経ブロックや薬物治療による痛みの治療や術前診察を行っています。

## 神経精神科

児童精神、精神科救急、クロザピンやm-ECTを使用した治療抵抗性精神障がいの治療、包括的地域生活支援(ACT)等アウトリーチ、ハウジングサービスを、経験豊富な多職種でチームを組んで重点的に行なっています。

## 救急救命科

救急外来診療、重症患者に対する集中治療、救急医療教育、地域メディカルコントロール、災害医療の5つが柱になっています。一次から三次までの症例に24時間常時対応している救急外来、教育や地域救急医療体制の構築にも重点を置いています。

## 歯科・歯科口腔外科

顎顔面領域の外傷・炎症・腫瘍病変・顎関節疾患・顎変形症、インプラント治療などの外科治療を得意としています。また、口腔ケアと通じて全身の健康サポートをしています。院内外からの依頼による治療が大半を占めています。

### 緩和ケア科

身体的、精神的苦痛を含めた全人的苦痛の緩和を目指します。最期までその人らしい生き方ができるように、医師、看護師、診療技術部門スタッフ等が専門性を生かし、協働してケアを行います。

## 放射線科

最新の半導体PET/CTの他、CT4台、MRI3台、IVR-CTを含む血管撮影装置5台、TAVI対応ハイブリッド手術室、SPECT/CT、リニアック治療装置（IMRT対応）2台を擁しています。画像診断、各科との協力により血管内治療（IVR）、放射線治療を行っています。

### 中央検査科

当科は、常に技術と精度の向上を図りながら病気の診断や治療が遅滞なく行えるよう、24時間体制で迅速かつ正確な検査の提供に努めています。また各診療科の採血やICT等のチーム医療に積極的に取り組んでいます。

## 臨床病理科

臨床病理科では、生検・手術検体の病理診断を行うことで、個々の患者さんに適した治療方針の決定に貢献しています。また病理解剖による最終診断を行うことで、病態を解明し、医療の質を高めるべく各科と協力しています。

さまざまな現場で
専門性を持ったスタッフが
患者さんを支える活動に
取り組む

## 看護局

看護局では「一人ひとりに寄り添う癒しの看護」という理念のもとで日々の看護を提供しています。教育面では、専門職として知識や技術を高めることが不可欠と考え、JNAラダーに準拠したクリニカルラダーと教育プログラムを用意し、院内研修やセミナーを実施し自己研鑽の場を提供しています。

専門性を高めるために認定看護師資格取得や、特定行為研修受講などのサポート体制も整えています。各分野の認定看護師が、看護の質向上に貢献しています。同時に院内認定看護師制度を導入し、現在、皮膚・排泄ケア及び感染管理の領域を学び実践に生かしています。

病棟では、医師や多職種と患者さんを結ぶ役割として看護師の存在は欠かせません。認定看護師を中心に、病棟のラウンドをはじめチーム医療を推進しています。

また、退院支援については各病棟看護師、ケースワーカー、ケアマネージャー、訪問看護師などと情報を共有し、サービスの向上に努めています。

## 診療技術局

診療技術局は、医師・看護師・薬剤師以外の医療技術職から成る11部署を統合し、2012年4月に設置されました。検査部門、放射線・臨床工学部門、リハビリ・歯科部門、栄養・相談支援部門の4部門で構成され、国家資格を有する約300名が所属しています。

当局では各職種の専門性を高めるだけでなく、職種の垣根を越えた活動により医療サービスの向上や病院事業への貢献度向上を目指しています。現在、各部署の代表者による会議を各週に開催、さらに出席者を増やした全体会議を議題により開催し、情報共有・検討を行い、連携を図っています。また部署、部門に関係なく、合同で研修会、勉強会等を開催しています。また、それぞれ専門職種が異なりますが新人教育を含めて各職が共通使用できる教育の段階を作成し人材育成に努めております。ひとつの局に統合されたことで、他職種の業務内容を把握することが可能となり、連帯感が高まると同時に切磋琢磨できる環境が生まれました。今後は医療技術職としての専門知識や技術を高め、診療支援の質の向上を図るとともに、より良いチーム医療サービスの提供のために連携を深め診療技術局が一体となって取り組んで参ります。

## 薬剤局

薬剤局では、医薬品の供給や調剤、抗がん剤等の無菌調製、薬物血中濃度解析、医薬品の情報収集と提供など薬に関するさまざまな場面で、安全性や有効性、経済性への貢献を目指して活動しています。全ての病棟に薬剤師を配置し、医師、看護師、他の医療スタッフとともに患者さんへ安全・安心な薬物療法を提供することを心掛け病棟活動に従事しています。また院内の様々な医療チームやリスクマネージメントへの参画を通じてチーム医療の一員として薬物療法の質向上に努めています。

## 診療支援・企画情報局

診療支援・企画情報局は、経営企画室、医療情報室、診療情報管理室および診療支援室により構成されています。主な業務は、病院の運営方針、経営戦略等の意思決定に必要な情報を発信することや医療情報システムの設計、稼動、運用の管理等です。また、診療録等の診療情報の管理および診療統計、診断書作成補助などの診療支援等を行っています。

## 事務局

事務局は、医療現場と密に連携し、病院事業の円滑な運営をサポートしています。行政や関連団体との連絡・協議や、健全経営に向けた予算やコストの管理、患者さんへの情報発信、患者さんの相談窓口としての機能、施設の維持管理など、皆様に安心して当院をご利用いただけるよう様々な業務を行っています。

## 附属施設

### 旭中央病院附属 看護専門学校

1964年に千葉県下で初めて病院附属の看護師養成学校として開設した学校です。「感じ、考え、自己を見つめ直せる看護実践者を育てる」ことを基盤に、病院と学校が一体となって良質の医療・看護を提供するための教育を行っています。

### 介護老人保健施設 シルバーケアセンター

急性期治療後の回復期リハビリを担い、病院から在宅への橋渡し役となり、重点的に在宅復帰の支援をしています。在宅復帰後の介護支援のために通所や短期入所などの在宅サービスも提供しています。

### ケアハウス東総園

独立して生活するには多少不安があるが、身の回りのことはご自分でできる方にご利用いただいています。自立性を尊重し、各種の生活相談に応じています。

### 旭中央病院附属 飯岡診療所

旭中央病院のサテライト・ステーションとして、週2日、半日の診療を交代制で行っています。受診者は安定期の高齢の方が中心で、採血、心電図・腹部超音波検査を行っています。

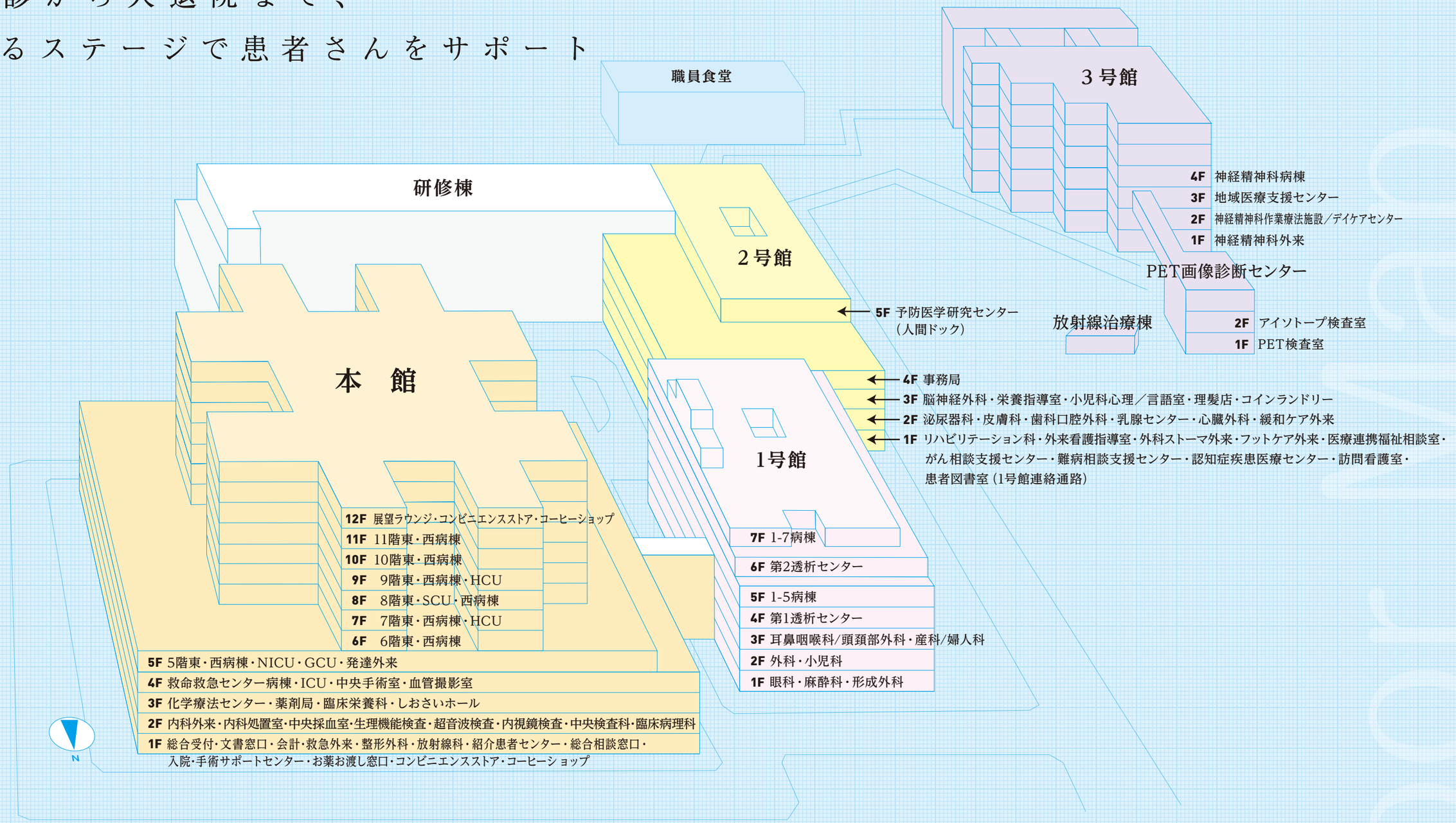
### 旭中央病院附属 病理診断科診療所

附属病理診断科診療所は2021年6月に東京都文京区本郷に開設されました。消化器内視鏡検査で採取された組織検体や、婦人科組織、泌尿器科組織などについて、患者さんの治療方針決定の為に病理組織診断を行っている診療所です。

### 訪問看護ステーション 旭こころとくらしのケアセンター

精神科特化型の訪問看護ステーションです。訪問エリアは原則、主に旭市となっております。24時間対応体制をとっています。

# 外来受診から入退院まで、
# あらゆるステージで患者さんをサポート




## 総合患者支援センター

患者さん・来院者に必要なサポートを適切に提供できるよう、以下の部署から構成される「総合患者支援センター」を設置しています。
◯患者支援センター（総合相談窓口、総合受付、文書窓口、内科外来看護師説明室）、◯医療連携福祉相談室（紹介患者センター、がん相談支援センター、難病相談支援センター、認知症疾患医療センター）、◯医療安全管理推進室、◯広報患者相談課、◯地域生活支援室、◯入院・手術サポートセンター、◯ボランティア支援

## 入院・手術サポートセンター（PFMセンター）

2019年、本館1階に「入院・手術サポートセンター」が開設され、入院前からの患者支援が強化されました。センターでは入院に必要な書類の手続き、入院までの準備や入院生活に関する説明、相談業務を一元化し、外来患者さんの円滑な入院手続きを支援します。また、手術予定の患者さんが安心して安全な手術を受けられるよう多職種が連携して患者さんの心と体の準備をサポートします。

## 予防医学研究センター（人間ドック）

当センターは日本人間ドック学会「人間ドック健診施設機能評価（Ver4.0）」の認定施設です。各領域の専任スタッフが、最新の医療機器にて検査を行います。検査結果に異常や病気が発見された場合には、当院専門診療科で精密検査や治療を受けることが可能です。2日ドックオプション検査には脳ドック、乳がん検診、肺ドック、PET検査などがあります。PET検査は1日ドックオプションとして受けることもできます。当院人間ドックを受診された方の支援として“ドックフォロー外来”を開設しています。